



キンクロハジロ 「ハート型の池にハートの使者、ハッピー！」 絵・井上 忠司

愛知県生れ。文化学院デザイン科卒業後、グラフィックデザインの世界へ。食品関係・洗剤関係の仕事を経てパッケージのアートディレクター（AD）になる。リタイア後に趣味で始めたバードウォッチングにはまり、10 年間鳥の絵を描いてきました。さんしょうのご利用者です。

第 8 回地域交流カフェのご案内

4月18日(火)、12:00~14:00

場所:さんしょうリビング

**テーマ
アロマテ
ラピーを
やってみ
ましょう**



写真:雛まつりのお茶会 (3/1)

中国医科大学のお客様

三和病院の高林克日己先生の紹介で、中国医科大学の皆さん約 20 名が見学にみえました (3/10)。日本の在宅医療、訪問看護、高齢者介護の視察です。さんしょうの 2 つのお風呂、温められた脱衣所や好みで入れる入浴剤に注目されていました。



炭鉱から税関へ

日本の経済変動のなか、歩んだ努力の人生

さんしょうのお正月書初め大会で、人生訓に富んだ独特な書（写真右）を書き、みんなの注目を集めたのが、橋本鐵男さん（88歳）です。



橋本鐵男さん

北海道のお生まれですが、北海道でのことを聞かせてください？

赤平にある北海道炭礦汽船（株）の炭鉱で働いていました。炭は無尽蔵にありました。8種類の炭があり、無煙炭や、ダイヤモンドのように光る炭、七色に光る炭も掘りました。トンネル内でライトを当てると光るんだよ。

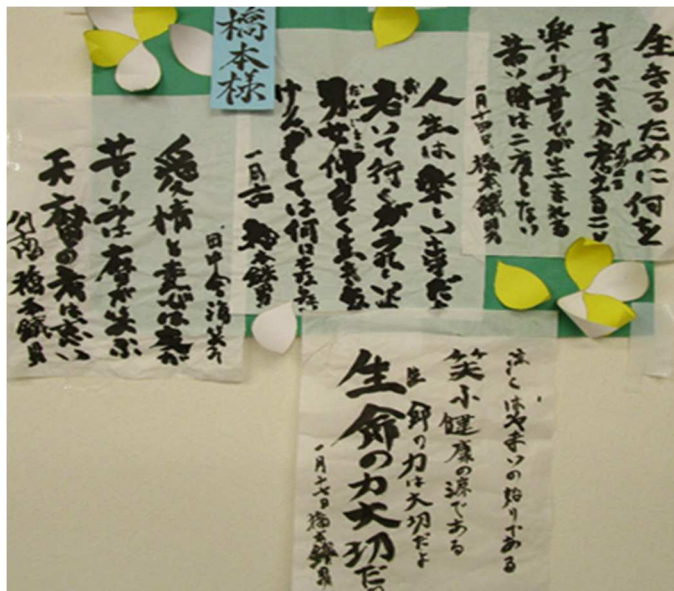
赤平はアイヌ語で山稜の崖を意味する「アカピア」からついた地名だね。昔、北海道は川の名前も土地の名前もアイヌ語でついていたのでね。そのころの赤平は人口が7万人もいる町でした。全国から人が集まってきた、病院や商店街もあり活気がありました。その地で結婚し、三人の子供にも恵まれました。仕事は大変でしたが、子どもたちは素直に育ちました。私もPTAの役員を務めていました。先生から「どんな育て方をしたら、こんなに良い子に育つのですか？」と聞かれるほどでした。

ところが、子供たちが大学や高校に進学した時に、炭鉱が閉鎖になり、収入が無くなりました。たくさんの人が仕事を失いました…。

その後のことをきかせていただけますか？

閉山後は多くの人々が、知り合いを頼りに東京や横浜に移り住みました。私も東京に行くことになりましたが、知人のいない土地に行くのは嫌だということで、家族とは離別しました。子供たちも学生になっていたのも北海道に残ることになり、私は単身で上京し、品川区に住み、税関の仕事につきました。

私は主に麻薬取締の仕事に携わり、東京税関や横浜税関で働きました。40歳を過ぎて新たな仕事に就いたので、先輩たちからも教わりながら、必死に勉強しました。昼の勤務と夜勤があり、本当に大変でした。船荷に何か隠していないか調べるのです。外国の積荷はそれぞれの国の言葉で書類が書かれており、その頃は手書きで読みにくく苦労しました。書類と積荷の照合をするのですが、「コーヒー豆ロースト」と書いてあるのに、「生の豆」が入っていて、重さも書類と違うの



で中を確認めると「麻薬の一種」が入っていたこともあります。私は、働いている人を管理するのも仕事で、大変でした。仕事場には監督者・責任者・担当者など色々な立場の人がいて、それぞれ役割をしている。それぞれの役割を果たすのは大事なことです。

その後、紹介されて再婚などもしました。連れ子を大学進学、就職させました。その頃、給料は5万円、家賃は2万5千円かかりました。普通では考えられないような苦労がいろいろありましたね。その子供たちも60代、高校生の孫が二人います。

税関の仕事を通して感じたことは「知ったかぶりはダメ」で、結局恥をかくということです。どんな仕事でも、何を聞くか、何を勉強するかを頭にいれておいて、先輩や経験者に聞くのがまず良いと思います。自分も「こんなこともわからないのか」と言われたこともあり、悔しい思いもしましたが。知ったかぶりがダメなのは、医療・介護従事者も同じだと思います。

胃ろう・ゼリー食から普通食に回復

さんしょう利用のご感想は？

病気になって具合が悪い時に、ある病院で「死にぞこない」と言われたことがあります。相手は聞こえていないと思っていたようですが。悔しかったですね。

介護する人をお願いしたいことは「嘘を言わないこと」、子供ではないので誤魔化さないで欲しいです。そこがわかっていない人に面と向かって文句を言ったこともあります。そういう人は反発も無く、何にもわかってもらえていないのだと残念な気持ちになりました。ナースコールを押しても「待ってくれ」というだけで全然来ない。用事を聞いてから、待っていてほしいことを説明すればよいと思います。患者は色々なことを体験しているし、よく見ていますよ。

いま私の病状は、主治医がびっくりするほど回復しています。これは、自分も努力しましたし、妻の協力

もありました。みなさんのおかげでもあります。さんしように来たときは、ゼリー食でした。みなさんが工夫してくれているのを知っていました。そのおかげもあって、今では普通食を食べてよいと主治医から許可がでました。気管切開・胃瘻など、大変な状況でしたが、ここまで頑張って良かったです。



だんだん会グループホーム開設祝賀会に参加



3月20日、幸樹会と親しく交流していただいている一般社団法人だんだん会（宮崎和加子理事長）が、4月に開設する「グループホームわいわい白州」の祝賀会に、山梨県北杜市まで、職責者6名で参加してきました。「グループホームわいわい白州」は、北に八ヶ岳、西に駒ヶ岳など南アルプスの山々が見渡せる自然豊かな美しい場所にあり、木をふんだんに使った素敵な建物でした（写真）。三方を葡萄畑に囲まれ、隣はワイン醸造所、近くに「道の駅白州」もあります。

「認知症のおひとりさまでも家で死ねますか？」

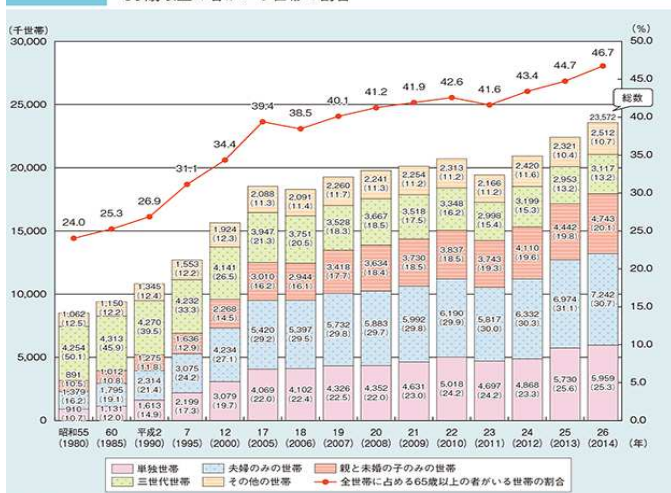
祝賀会の前に、社会学者・上野千鶴子さんの講演があり、とても興味深い内容でした。上野さんは『おひとりさまの老後』『男おひとりさま道』『おひとりさまの最後』等の著書が多数ある著名な方ですが、北杜と東京で半々に暮らしているそうです。

講演のテーマは「大好きな北杜で最後まで！」。

なぜ「在宅ひとり死」を考えるか、どうすればひとりで最後まで自宅で暮らせるのでしょうか？と、上野さんは聴衆を巻き込んで具体的に話を進めます。

現在高齢者がいる世帯のうち単身世帯率は25.3%（グラフ・ピンク色）、夫婦世帯率30.7%（グラフ・水色）、合わせると56%と半数を超え、夫婦は死別すると単身世帯になるので、これからますます単身世帯（おひとりさま）が増えるから。第二に病院でも施設でも死ねなくなる「死に場所難民」が増えるから。このふたつを合わせると、「在宅ひとり死」は希望ではなく、直面せざるを得ない現実だから、と。

2-1-1 65歳以上の者のいる世帯数及び構成割合（世帯構造別）と全世帯に占める65歳以上の者がいる世帯の割合



資料：昭和60年以前の世帯数は厚生省「厚生行政基礎調査」、昭和61年以降の世帯数は厚生労働省「国民生活基礎調査」による。
 (注1) 平成7年の世帯数は長寿統計を基にしたもの、平成23年の世帯数は宮崎、宮崎県及び福島県を除いたもの、平成24年の世帯数は福島県を除いたものである。
 (注2) () 内の数字は、65歳以上の者のいる世帯総数に占める割合 (%)
 (注3) 四捨五入のため合計は必ずしも一致しない。

これまで在宅看取りは家族介護力あつてのものだったが、癌などの終末期ケアの地域介護力がある地域では、ひとりで最後まで暮らせるようになってきた。そのうえ、アンケート調査や全国の実践からわかってきたことは、家族と一緒に暮らしている方よりも、ひとり暮らしの方のほうが満足度は高い、と…。

意外な感じがしますが、確かに家族がいると子どものことを心配したり、子は親を心配したり、はては病院・施設へなど、何かと気を遣ったり、考え方が違ったり、もめごとなんかもあるものです。家族等関係者が多いと自分の意思を通せないかもしれません。

講演の後には、宮崎和加子さんのほか、特に医師の少ない北杜市で外来・訪問診療に奮闘している市立白州診療所の武田盛男医師、三井ひろみ北杜市介護支援課長でシンポジウム。「宮崎さん、たとえば私がおひとりさまの認知症になっても、家で死ねますか？」(上野)、「う〜ん、できると思います。ただ、行方不明になったりすると…」(宮崎)、「私はGPS装置を付けます」(上野)、「大丈夫でしょう。たぶん…」(宮崎)などのやり取りがありました。

だんだん会には、すでに5人のベテラン看護師・保健師、18人の介護職員がいて、2月から「地域看護センターあんあん」(訪問看護)を開設し、今年度後半には訪問介護事業と24時間定期巡回随時訪問介護看護事業の開始を準備しています。地域交流「オレンジサロン」も昨秋から開催しています。4月には、訪問診療も行う「森の診療所」が近くに開設されます。

上野さん、北杜で最後まで暮らす決意ができたでしょうか？ 地域条件は違いますが、私たちも色々刺激とヒントをいただいた1日でした。(中野三代子)

今月の屋上太陽光発電量は…

1,139 kwh

幸樹会館電力使用量 5299kwh 自給率 21.5 %

こんな時、 どうする？ どうした!?

—その3—

食べられないものを口に入れてしまった！

さんしょう介護職員 滝沢奈々

年末、みんなで芋はん年賀状づくりをしているとき、職員がちょっと目を離した隙に、Eさんが黄色のインクを食べようと口に入れてしまいました。急いで駆け寄り、うがいをして水分を多めに取っていただきました。インク販売業者に問い合わせると、「生命への危険性はない」との回答がありました。

なぜこのようなことを起こしてしまったかを考えてみると、これまでも目の前にある物を口に入れてしまう事があったにもかかわらず、職員間で情報共有されておらず、また認知症の失認による心理・行動への知識不足があり、職員の危機管理意識が薄かったことが考えられました。

翌日、職員で話し合うと、「前日も芋はんを食べようとしていた」「夜間、お芋を食べたいと言っていた」との話ができました。Eさんのなかでは、相当お芋への思いが図のように盛り上がっていたと推測されます。



今後は、「いつも職員の目の届くところに座っていただく」「テーブルの上などを整理整頓して、Eさんの目の前に物を置かない」等を確認し、対応しました。

ずっと在宅生活が続けられるよう支援

あんず居宅介護支援事業所ケアマネジャー 山川靖子

Fさんは、アルツハイマー型認知症、糖尿病、緑内障があり、要介護1です。「私はもうどうなってもいいんです。来なくてもいいから」との言葉が多く、険しい表情が続いていました。デイサービスにも行かず、閉じこもり気味で、意欲も低下し家事も一人ではできなくなっていました。

そこで、訪問回数を増やし、ご本人の思いをゆっくり傾聴する、興味があること・出来たこと・難しいことを見つける、家族と一緒に家事や外出の提案等の方法を検討し実践しました。

昔仕事でがんばってきたことを照れながら笑顔で話されたり、家族の話をするとう表情は穏やかになり

焼芋屋さん と だいすけ君



焼芋屋さんが幸樹会館に来てくれました (3/21)。

左の写真は、焼芋屋の成田富作さんに焼芋を持って抱っこしてもらっている南雲朋子看護師の息子の太輔君(2歳)です。

成田さんは、青森県弘前から出てきて、松戸で46年間、夏は

おでん、冬は焼芋を売ってきました。3月末で店じまいして、ふるさと弘前に帰り、弘前ではおでん屋をするそうです。

薪の釜で焼くこの焼芋は絶品！利用者も職員も太輔君も大喜びでした。



ました。ただし、年末年始に来る予定だった娘さんが都合で来れなくなると、ショックで塞ぎ込み1日中布団から出れない日が数日続きました。

その後、家族と共に病院受診し帰りに一緒に外食。そこから少しずつ落ち込みが軽減されてきました。

「家事はなんでも自分でしていたわ。今でもできますよ」と。娘さんと一緒に家事を提案すると、娘さんの休みに一緒に食事作りをしたとのこと。訪問看護、デイサービスの皆さんにもご協力いただきました。

最近では、食事の準備、洗濯とりこみ・たたみなど家事の役割が増え、笑顔がみられてきました。

その方の嬉しいこと・幸せに感じられること、病気や性格などを考慮しながら向き合うことが重要で、コミュニケーションがとても大切、それが安心感となり信頼関係につながっていくことを実感しました。

八柱学習会（定期勉強会）

●前回報告 3月17日(金)実施。テーマ「看取りケア②」 助言者 武井幸穂氏

【参加者感想】参加者10名。宮崎和加子・竹森志穂他著『在宅・施設での見取りのケア』を読んで。

「さんしょうでも看取りが始まったので、大変参考になり、勉強しています」

●次回学習会予定(定例日：毎月第3金曜日)

日時：4月21日(金)18:30～19:30

テーマ：看取りケア③、「E・キューブラー・ロス「死の瞬間—死とその過程について」から

*場所：幸樹会館2階 *参加自由

看護師・介護職・ケアマネ・薬剤師募集中！

連絡先：☎047-701-7550本部：中野まで